様式第１２号（第１０条関

まちづくりチャレンジ協働事業補助金実績報告書

令和８年　９月　30日

NPO法人
恵庭市市民活動センター運営協議会
理事長　　川原　淳一　様

団体名 NPO法人えにわ市民プラザ・アイル
住　所 [redacted]
申請者　氏　名　竹内　誠裕
電　話 [redacted]

2026　年　5月　１日付特恵活第 13 号をもって交付決定のあった恵庭市まちづくりチャレンジ協働事業補助金に係る実績報告について、恵庭市まちづくりチャレンジ協働事業補助金交付要綱に基づき交付された補助金の交付に関する事務手続き要領第１０条の規定により下記のとおり報告します。

記

１　協働事業の名称　：　高齢者の地域調査と啓発活動による終活サポート事業

２　補助金交付決定額　　73，300円

３　補助対象事業の決算額　　83，300円

４　実施期間　　令和　８年　４月　１日から　令和８年　９月　末日まで

５　添付書類
(1) まちづくりチャレンジ協働事業報告書（様式第１３号）
(2) まちづくりチャレンジ協働事業補助金収支決算書（様式第１４号）
(3) その他理事長が必要と認める書類

受付
26.9.30
恵庭市
市民活動センター

様式第１３号（第１０条関係）

まちづくりチャレンジ協働事業報告書

協働事業の名称	高齢者の地域調査と啓発活動による終活サポート事業		
団　体　名	NPO法人 えにわ市民プラザ・アイル	実施場所	恵庭市内
担当課	保健福祉部　介護福祉課		

協働事業の実施状況 ※いつ、どこで、なにを、どうしたか記入してください。	地域調査を市老連を通じ、４月１４日から６月末日まで実施し、200枚の交付に対し171枚を回収した。このデータを北海道文教大学看護学科初見研究グループと協働で分析し、今後の終活活動の方向性を把握することができた。
協働事業の成果 ・事業内容の成果 ・協働で取り組んだことの効果　等	団体の成果　このシンプルな地域啓発調査であるが、別添報告書P5のクロス分析により、今後の活動の方向性が３点(P12)に絞られ、具体的なアクション・プログラムを組むことができ、今後の終活活動の方向性が明確化されました。 担当課の成果　別添報告書P5に記載のとおり、恵庭市老人クラブ連合会に対するアンケート調査の結果、200名対象とした内171名から回答を得られました。 「終活」という一見触れにくい調査テーマでありながら、約88%と高い回収率を記録し、高齢者の人生に寄り添い、終活を通じて安心して暮らせるまちづくりを行う事業として、効果が高いと言えます。
協働事業の実施時における役割分担	団体の役割　地域調査と終活活動を行うために「市老連・広報誌掲載・市長トーク」等の依頼をはじめ、情報を提供し実現に向けて協働してきました。 担当課の役割　調査協力、広報活動、連絡調整
次年度以降の見通しと課題	団体として　この６ヶ月間で概ね、所定の目的は、達成したものの、10月以降の活動費(人件費・通信費・交通費など)の目処がなく苦慮しています。できれば若干の予算化をお願いできれば有難いし、市民の安心した生活のために地域貢献を促進することができます。 担当課として　市民の安心した生活のために地域貢献を促進できる効果は期待しますが、当年度における予算化は実施しないです。

	共通して

※　周知用チラシや実施時に記録した写真等を添付してください。

※　記載欄が不足する場合は別途資料を添付しても構いません。

＊自己評価

評価欄にあてはまる数字を記入してください。

4…できた（非常にあった）

3…概ねできた（あった）

2…あまりできなかった（あまりなかった）

1…ほとんどできなかった（ほとんどなかった）

項目	評価者	評価	1や2の場合、その理由
課題や目的を共有することができたか	団体	4	何かにつけて、協力的で気持ちよくコミュにレーケーションがとれ、共有することができました。
	担当課	4	
目的は達成できたか	団体	4	当初から市役所各部・市老連・りんく・文教大学のご協力で達成できました。
	担当課	4	
計画どおり進めることができたか（事業費、実施体制、自主自立性等）	団体	3	６ヶ月のスケジュールを立て、協議しながら推進できました。体制はできているが、事業内容から収益性が発生しないので、今後の活動に苦慮しています。
	担当課	3	
市民ニーズは反映されたか（不特定多数の利益、まちづくりへの寄与等）	団体	4	市老連の終活地域啓発調査をはじめ、終活アドバイザーの熱意により、終活の言葉をごく自然に使えるよう、貢献していると考えています。
	担当課	4	
互いの役割分担はしっかりできたか	団体	4	完璧なまでにコミュニケーションが図られ、役割分担が良くとれました。感謝してます。
	担当課	4	

協働で事業実施をした効果があったか	団体	4	フェス・ツー・フェースで、意思疎通が図られ、協働事業に効果が現れ「報告書」できあがった。
	担当課	4	

様式第１４号（第１０条関係）

まちづくりチャレンジ協働事業補助金収支決算書

協働事業の名称：高齢者の地域調査と啓発活動による終活サポート事業

1　収　入　　(単位：円)

項　目	金　額		説　明　（積算等）
	予算	決算	
まちチャレ補助金	73，300	73，300	調査費20，000円・報告書等43,200他
えにわ市民プラザ	10，000	10，000	終活活動の教材・消耗品費
合　計	83，300	83，300	

2　支　出　　(単位：円)

項　目	金　額		説　明　（積算等）
	予算	決算	
通信費	44，000	20，000	市老連調査費として
報告書作成費等	30，000	43，200	報告書作成・事務費・交通費
会議費	1，500	5，000	人生会議・座談会　　対象外
通信費	5，400		
交通費　エコパス	2，400	8，000	終活アドバイザー交通費(各種会議)
教材・消耗品		7，100	教材・消耗品費
合　計	83，300	83，300	

※　支出証拠書類等の写しを添付してください。